

# 平成 19 年度 東商エコリーグ 事業報告書

平成 20 年 6 月

## 事業概況：

< 全体傾向 (平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 20 年 3 月 31 日) >

平成 20 年 3 月末現在の参加事業者数は、対前年度比で 58 件増 (全体の約 3 % 増) の 1,979 件であった。3 年前の (16 年度) 一部地区のシステム見直しを契機に大幅に減少したが、以降大きな変動はない。

年間回収量は約 1,975 トンで対前年度比で約 0.3 トン増加した。3 年前に続く過去 3 番目の回収実績を上げた。参加事業所数・回収量の増減傾向は各地区各様だが、全体としてみれば回収は安定的に行われているといえる。

< 地域別傾向 >

参加事業所数が増加した地区は、港 (2 社)、台東 (38 社)、江東 (4 社)、世田谷 (37 社) 渋谷 (3 社) の 5 区で昨年より 1 区増加した。減少区は、新宿 (-1 社) 墨田 (-18 社)、北 (-6 社)、荒川 (-1 社) の 4 区で昨年より 1 区減少した。港、台東、墨田、江東、世田谷、北、渋谷では新規参加事業所があった。

回収量では増加区が新宿、台東、墨田、中野、北、板橋、渋谷の 7 区で昨年より 2 区増加、減少区は港、江東、大田、世田谷、荒川の 5 区で昨年より 2 区減少した。これまで板橋が、ここ数年減少傾向にあったが、今年度は増加に転じた。

< 所感 >

ここ数年、中国の旺盛な古紙需要により、これが国内古紙価格へ波及している。日経ウィークリーの古紙市況によれば、例えば新聞の都内問屋の買取価格が平成 18 年末には約 6 円/kg だった。これが平成 20 年 5 月には 14 円/kg となり、約 1 年半で約 2.5 倍にまで昇りつめてきた。平成 13 年には 2 円/kg と低位安定で推移していたが、当時から比べるとリサイクルマーケットは一変した。

平成 20 年 4 月より 23 区の事業系一般廃棄物処理手数料が値上げされた。従前 28.5 円/kg だったのが 4 円上がり 32.5 円/kg となった。エコリーグは地区ごとに回収システムはすべて異なるが、平均的な回収コストは 14 円/kg となっている。ごみ処理手数料の値上げにより、リサイクルするインセンティブが働き、小規模事業所の事業系古紙リサイクルシステムへの参加ニーズがますます高まることが予想される。

一方で、古紙価格の回復は、新たな競争原理が働き、とりわけ比較的古紙が大量発生する顧客には他の回収サービスとの比較にさらされるケースが出ないとも限らない。

小規模事業所を対象にした東商エコリーグは、今後 23 区で家庭系ごみ有料化が実施された場合にはなくてはならない存在でもある。今般の処理手数料の改訂などを契機に東商会員へのシステム PR のみならず、支部を通じて各区との連携を一層緊密にする必要があるといえる。

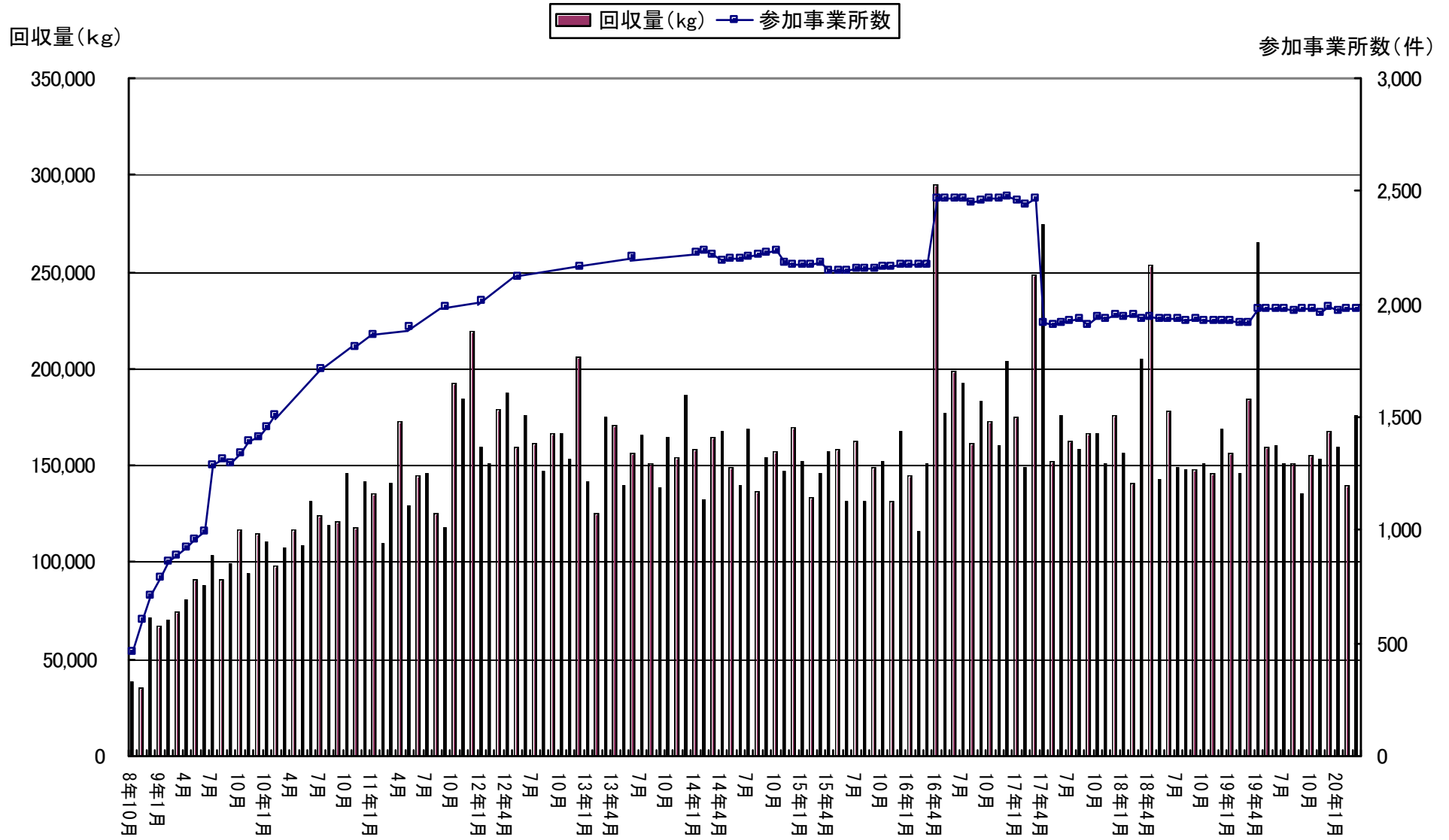
報告書作成：東リ協会 (社団法人東京都リサイクル事業協会) 旧 R 団連 (東京都リサイクル事業団体連合会)

〒111-0055 東京都台東区三筋 2-3-9-701 TEL:03-5833-1030 FAX:03-5833-1040

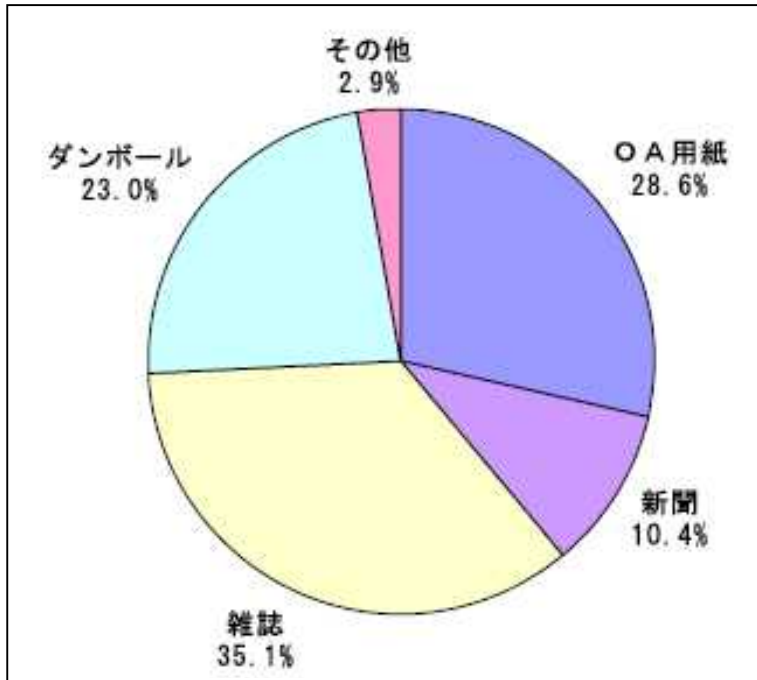


# 東商エコリーグ 月別回収量と参加事業所数の推移

東リ協会事務局



## 回収古紙別割合 (平成8～平成20年3月)



過去 12 年間の古紙回収実績から、回収古紙別の割合で最も多いのは、雑誌で約 4 割 (35.1%)、次いでコピーや連続用紙などが約 3 割 (28.6%)、段ボールなどの梱包材が約 2 割 (23.0%)、新聞古紙が約 1 割 (10.4%) の組成となっている。

## 古紙価格の推移

